

スポーツ施設（陸上競技場）の再配置先の候補地について

（市民総合プールの再配置先が陸上競技場となった場合）

1 陸上競技場の候補地の抽出及び評価の手順

- 市民総合プールの再配置先を陸上競技場（パターン3～5）とした場合の陸上競技場の候補地の評価を行います。
- パターン3、4の陸上競技場の再配置先について、再検討部会での各委員のご意見を踏まえて設定した再配置先の抽出の観点をもとに、評価を行う候補地を抽出します。
- 陸上競技場の候補地の抽出条件については、各委員のご意見を基に、表2のとおり設定しました。

市民総合プールの再配置先が陸上競技場となった場合

①市民総合プールの再配置先の抽出

表1：再配置先のパターン

	市民総合プール	陸上練習場
パターン1	中部下水処理場	現地存続
パターン2	その他候補地	現地存続
パターン3	陸上競技場	平和公園内へ移転
パターン4	陸上競技場	その他候補地へ移転
パターン5	陸上競技場	機能統合（柿泊）

候補地を抽出

②-1 市民総合プールの再配置先の評価

機能性、公共交通・自動車・大型バス等のアクセス性、経済性の観点から評価

②-2 陸上競技場の再配置先の評価

機能性、公共交通のアクセス性、経済性の観点から評価

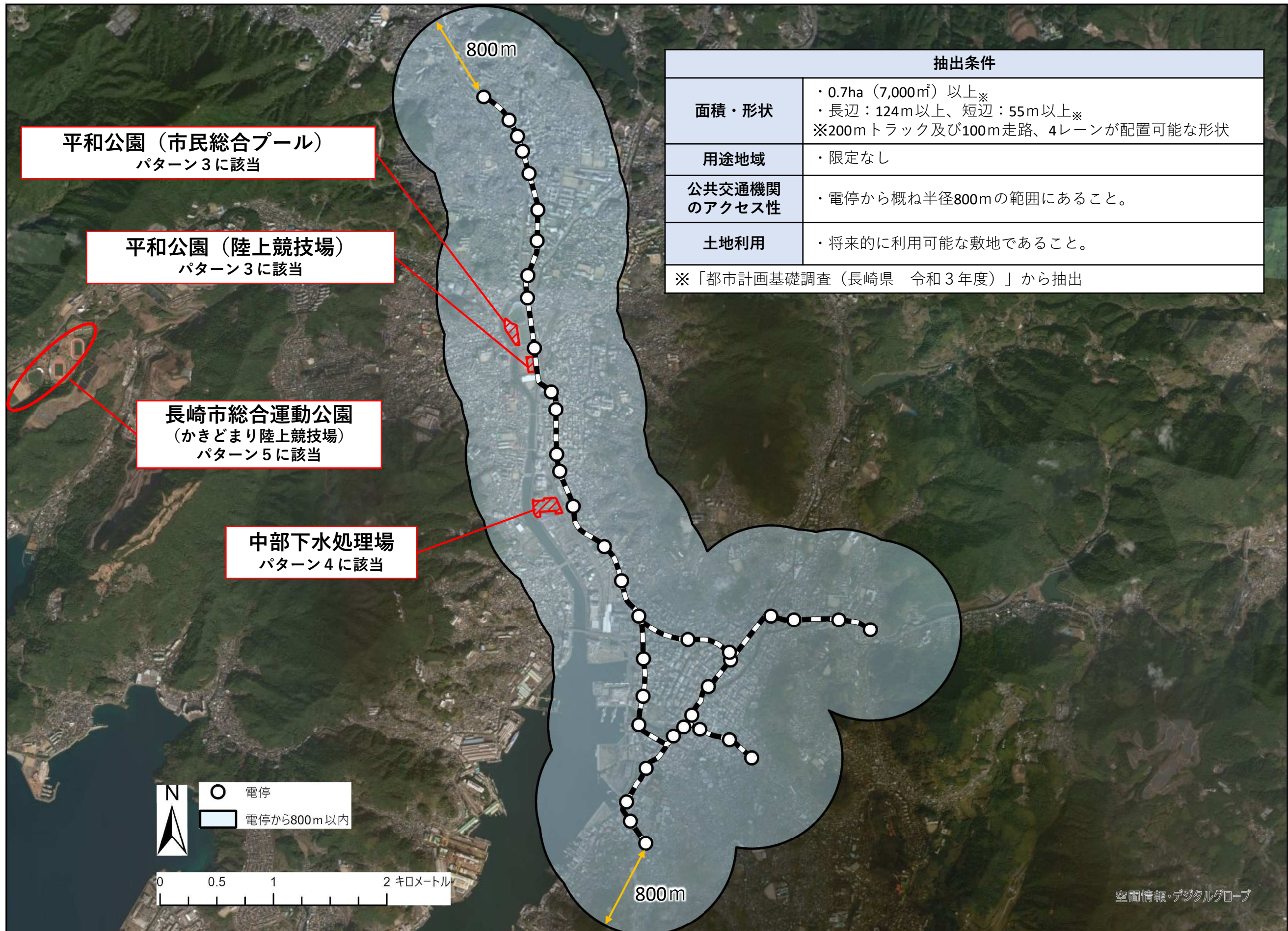
②-3 再配置パターン全体の評価

場所性、将来性、連携性、安心・安全性の観点から評価

表2：候補地の抽出条件（全て満足することが必要）

再配置先の抽出の観点		抽出条件
敷地条件	敷地面積・形状	<p>■敷地面積</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0.7ha_※以上の敷地面積であること。 ※200mトラック及び100m走路、4レーンが配置可能な敷地面積（約0.7ha）として想定 ※400mトラックの場合は、1.6ha程度 <p>■形状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・200mトラック及び100m走路、4レーンを整備できる形状 （長辺：124m以上、短辺：55m以上） ※再配置先の抽出の段階では、最も必要面積が少ない200mトラックが配置可能な敷地であることを条件としている。
	用途地域	—（用途地域に関わらず整備可能）
	土地利用	・ 将来的に利用可能な敷地 であること。
公共交通機関のアクセス性		<ul style="list-style-type: none"> ・電停から概ね半径800m_※の範囲にあること。 ※第2回再検討部会では「現状と概ね同程度の公共交通のアクセス性を有している場所である」としていたが、第2回再検討部会での意見を受けて、範囲を拡大した。800m（徒歩約10分）という値は「長崎市地域公共交通計画」における鉄道駅の徒歩圏の定義を参照した。

2 陸上競技場の再配置先の候補地



参考 陸上競技場のトラック等の規模・形状

トラック	短辺方向が最長	長辺方向が最長
400m トラック	<p>敷地面積：約1.7ha</p>	<p>敷地面積：約1.6ha</p>
300m トラック	<p>敷地面積：約1.0ha</p>	<p>敷地面積：約1.0ha</p>
250m トラック	<p>敷地面積：約0.9ha</p>	<p>敷地面積：約0.8ha</p>
200m トラック	<p>敷地面積：約0.8ha</p>	<p>敷地面積：約0.7ha</p>